

雑草が多いほ場での暖地型牧草栽培技術					
[要約] 雑草が多いほ場で暖地型牧草を安定的に栽培するためには、前作を早生イタリアンライグラス2回刈りとし、暖地型牧草の中で初期生育の比較的早いグリーンミレットを条播栽培することで高い乾物収量が期待できる。					
担当部署	畜産環境部・飼料チーム			連絡先	092-925-5177
対象作目	飼料作物	専門項目	栽培	成果分類	技術改良

[背景・ねらい]

飼料自給率の向上は大家畜農家の経営安定にとって重要である。省力的に自給飼料を生産する方策として、ロールベアラ・ベールラップ作業体系が普及しており、周年ロールベール体系で自給飼料の生産を行うために牧草型夏作物として暖地型牧草に対する関心が高くなっている。

しかし、暖地型牧草は初期生育が遅いため、雑草が多い圃場での栽培は困難である。

このため、主要暖地型牧草について、雑草が多いほ場での栽培方法を検討し、周年ロールベアラ・ベールラップ作業体系に適合した暖地型牧草の省力安定生産技術を確立する。

(要望機関名：飯塚農林(H10))

[成果の内容・特徴]

1. 雑草が多いほ場で暖地型牧草を栽培する場合、前作のイタリアンライグラス早生品種を2回刈りし、跡地にグリーンミレットを条播栽培すると高い乾物収量が期待できる(表1、図1、2)。
2. 暖地型牧草栽培では、イタリアンライグラス晩生品種跡地より早生品種2回刈り跡地で栽培した方が乾物収量は、高くなる傾向にあり、また、散播播種より条播播種を行った方が乾物収量は、高くなる傾向にある(表1、図1)。
3. 暖地型牧草を条播栽培する場合、麦用播種機を使用すれば条間30~50cm程度で播種することができる。
4. グリーンミレット以外の草種では、サマーミレット、ギニアグラス(ナツコマキ)が比較的高収量であるが、雑草の多いほ場では乾物収量の半分程度は雑草となる(表1、図1、2)。

[成果の活用面・留意点]

1. 雑草が多い圃場で、暖地型牧草を5月播種する場合に参考として活用できる。
2. ギニアグラス及びローズグラスを麦播種機で条播する場合は、種子が小さく軽いためコート種子を使用する。コート種子の播種量は未コート種子の1.5~2倍量とする。

[具体的データ]

表 1 播種方法の違いによる牧草乾物収量及び雑草乾物量(平成13、14年 単位:kg/10a)

	播種方法	グリーンミレット		サマーミレット		イタリアンミレット		ナツコキ(キニアグラス)		カタンボラ(ローズグラス)	
		早生跡地	晩生跡地	早生跡地	晩生跡地	早生跡地	晩生跡地	早生跡地	晩生跡地	早生跡地	晩生跡地
牧草乾物重	条播	969	864	560	289	449	369	649	136	223	54
	部分耕	786	610	-	-	419	299	340	370	340	153
	散播	480	238	151	114	150	78	0	36	55	36
雑草乾物重	条播	130	261	405	718	865	873	729	899	852	1,001
	部分耕	130	278	-	-	638	631	495	506	649	565
	散播	698	653	922	965	1,016	969	776	1,070	1,204	1,070

注) 1. 条播：麦は種機による全面耕耘条播栽培(条間30cm)、部分耕：部分耕耘D-刈による麦は種機条播栽培(条間30cm)、散播：全面耕耘散粒機播種による散播栽培
 2. 播種日：平成13年5月23日 平成14年5月21日 播種量：各品種2kg/10a
 3. 前作はイタリアンライグラス：早生跡地(ヤマザリ)2回刈り、晩生跡地(マンモスB)1回刈り。刈取り日：平成13年5月18日、平成14年5月16日

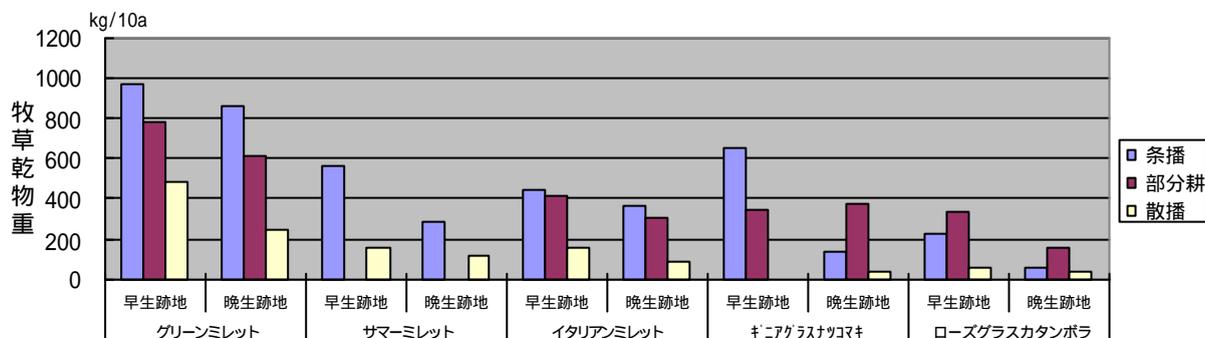


図1 播種方法と牧草乾物重

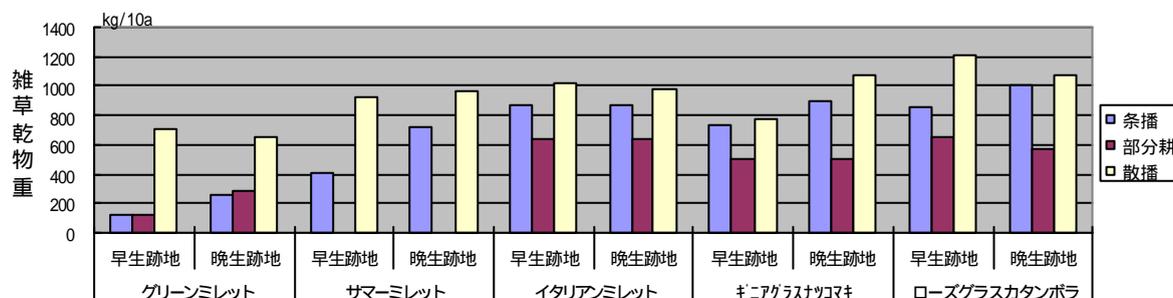


図2 播種方法と雑草乾物重

[その他]

研究課題名：有用暖地型牧草を利用した省力的作付体系

予算区分：経常

研究期間：平成14年度(平成12～14年)

研究担当者：馬場武志、家守紹光、井上信明

発表論文等：平成13、14年度畜産関係試験成績書